


 愛知 13 区
 安城・刈谷・碧南・知立・高浜

前衆議院議員

タイトル

歴史的な大敗!!

おおにし健介

1. 議席を失う

まずは、2009 年の初当選以来の議席を守ることができなかったことに対して、ご支援をいただいた全ての皆さまに対して、心よりお詫び申し上げます。

中道は、公示前の 167 議席から 49 議席へと激減し、特に、旧立憲民主党出身者は 148 議席から 21 議席となり、安住淳共同幹事長、馬淵澄夫共同選対委員長ら執行部をはじめ、小沢一郎元民主党代表、枝野幸男元官房長官、岡田克也元外相など大物議員も落選しました。

しかし、そんな逆風の中でも議席を守った仲間はいるので、全ては私の力不足が理由であり、考えが甘かったと反省しております。申し訳ありませんでした。

前回の選挙から 1 年 3 ヶ月、地元活動でも国会活動でも手を抜くことなく自分なりに一所懸命に取り組んできたつもりです。選挙の時だけではなく常日頃から街頭活動は続けてきましたし、昨年、第 217 回通常国会では、衆議院で 7 名だけの三ツ星議員表彰を受けました。

ただ、今回の選挙結果は、個々の議員の活動とは別の要因に因るところが大きかったのも事実です。しかし、それも含めて自分の判断ミスだと思っています。



2. 主な敗因

今回の解散、総選挙は、「高市早苗が内閣総理大臣で良いのかどうか」を争点とし、女性初の首相となった高市首相の「押し活」選挙でした。選挙期間中も「誰を相手に戦っているのだろう」という感覚にとらわれました。今回は、投票率が上がりましたが、高市さんに共感して「私が支える」と思った有権者の多くが、とにかく自民党の候補に投票したと思われまます。

そして、最大の敗因は、中道改革連合が思った以上に有権者に受け容れられなかったことだと思えます。立憲と公明の両党の支持層を足し合わせることで、無党派層の一部の票が逃げても差し引きではプラスになると



いう算段でしたが、結果は「足し算」どころか「引き算」になってしまいました。

立憲と公明は、理念や政策が近く、決して野合ではありません。昨年10月の公明の連立離脱以降、両党は、将来の連携を模索していましたが、急な解散で合流のスケジュールを一気に前倒しせざるを得ませんでした。結党大会を開いたのは公示日のわずか5日前で、当事者の我々が困惑するくらいなので有権者の理解を得られなかったのも仕方ありません。首相の信任を問う構図の選挙で、できたばかりで、共同代表の政党では、有効な対抗軸を示すことは難しいのは当然です。共同代表の二人は、政治家としての実績もあり人柄も誠実で信頼できる方ですが、「2爺(2G)」と呼ばれるように刷新感はなく、掲げた政策も躍進した「チームみらい」のような期待感を持たせる新しさに欠けていたため、新党への期待は膨らみませんでした。

公明党支持層の皆さんは、真面目で、その多くは中道の支持に回ったと思います。一方で、結果を見れば、旧来の立憲支持層や無党派層が想定以上に離れてしまったと思われる。

また、SNSで「高市動画」が億単位の再生回数を記録したように、自民党が多額の資金を投じて展開したネット空中戦に対して、我々は無力だったことも大きいと思います。



3. 焼け野原に立ち

私は、今回の選挙で、「政治には健全なバランス、緊張感が必要」と訴えてきました。しかし、結果は、自民党が単独で316議席を獲得し、戦後初めて一政党で衆院の3分の2を超えるという歴史的圧勝に終わりました。その上、公明というブレーキを失い、維新というもう一つのアクセルが加わりました。

高市首相は、総選挙を受けた記者会見で、「国論を二分する政策」を巡り、「国民のみなさまからの信任をいただいた」と述べましたが、選挙戦では「国論を二分する政策」の肝心の内容を明らかにしないままでした。

小選挙区での自民党の合計得票率は49%だったのに対して、小選挙区議席の86%を占めました。それが小選挙区制度の効果だと言えればそれまでですが、自民党はけっして「白紙委任状」を得た訳ではないことは肝に銘じて欲しいと思います。

2005年の郵政解散の次の選挙が2009年の政権交代選挙です。大きく一方に振れた振り子は必ずもう一方に振り戻す時が来ると思います。

「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く」。

私は、何も無いゼロから、2007年に政治活動を始めました。また、一から出直しです。



Profile



▶昭和46年4月13日生まれ

▶京都大学 法学部卒

▶国会職員、在アメリカ大使館二等書記官、前衆議院議員 馬淵澄夫政策担当秘書を経て、平成21年第45回衆議院議員総選挙で初当選。以来、連続6期当選。

▶党務では、選対委員長、青年局長などを経て、現在は選対委員長代行

▶国会では、経産委員会(筆頭理事)、消費者特別委員会(筆頭理事)、厚労委員会に所属

▶小学生、高校生2人の男の子のパパ。ニックネームは「オニケン」